

「時間・順序」を表す字音接頭辞の体系性

張 明

論文要旨

本稿は「時間・順序」を表す字音接頭辞「前」「旧」「昨」「先」「現」「今」「翌」「来」「明」「後」について考察するものである。コーパスで収集した用例に基づくと、まず大きく照応用法と修飾用法に分類する。次にそれぞれの字音接頭辞の意味機能について詳しく検討する。最後に「時間・順序」を表す字音接頭辞がどういった体系性をなしているかを明らかにする。その体系性について、以下の5点が指摘できる。①修飾用法においても、照応用法においても、「前」「旧」と「現」が対義関係になっている。②空間的な前か後ろか、および発達段階の前か後ろかで、「前」「先」と「後」が対義関係になっている。③新しいか古いかという意味で、限定修飾構造の「旧」と「新」が対義関係になっている。④時間関係の前か今か次かという意味で、「昨」と「今」と「来」「明」が対義関係になっている。⑤「翌」と対義関係になる字音接頭辞が見当たらない。

キーワード【字音接頭辞、体系性、照応、修飾、意味分析】

1. はじめに

近年の字音接辞の研究は、個々の、あるいは複数の字音接辞を取り上げて、意味・機能について詳しく論じる研究だけでなく、字音接辞を体系的に分類し、その全体像を示す研究も最近見受けられるようになってきた(山下(2018)、張(2018)、曹(2019))。字音接辞を網羅的に抽出し、体系的に分類することは重要であるが、分類結果をどのように利用し、今後の字音接辞の研究にどのようにつなげて貢献するかということも考える必要がある。まさに、山下(2018)が指摘したように、「分類そのものに注力するより、分類結果をひとつの資料として、個々の、あるいは複数の字音接辞を取り上げて、語構成上の意味や機能についての研究を進めることが肝要と思われる」(p.227)。

そこで、本稿は「接辞グループの特徴を明らかにする研究へと発展させる」(山下2018: 218)研究として、時間・順序の前後関係によって、「過去・現在・未来」というように、3系列をなす「時間・順序」を表す字音接頭辞というグループを取り上げることにする。

「時間・順序」を表す字音接頭辞には、「前首相・旧ソ連・昨年度・先場所・現政権・今世紀・翌2018年・来シーズン・明十五日、後半生」の「前・旧・昨・先・現・今・翌・来・

明・後」がある。本稿は、コーパスで収集した用例に基づいてそれらの意味・用法を考察したうえで、どういった体系性をなしているのかを明らかにする。

なお、本稿の字音接辞は、山下 (2018)、張 (2018) にしたがって、「新チーム・脱原発・未発表・感情的・映画化・勉強家」の「新・脱・未・的・化・家」のように、主に二字以上の漢語や和語、外来語に前接または後接して合成語を形成する字音形態素のことを指す¹⁾。「新・脱・未」のように、二字以上の漢語や和語、外来語に前接して合成語を形成するものは字音接頭辞、「的・化・家」のように、後接して合成語を形成するものは字音接尾辞であるとされている。

2. 考察資料と用例

本稿は、資料として、国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)を使用した。中納言を使用し、短単位検索で、キーを未指定にし、前方共起をキーから1語に設定し、それぞれ「書字形出現形 が 前・旧・昨・先・現・今・翌・来・明・後 AND 語彙素読み が ゼン・キュウ・サク・セン・ゲン・コン・ヨク・ライ・ミョウ・コウ」という指示²⁾で検索した。目視で用例を確認し、字音接頭辞でない用例(不要な表現)を除外した。各字音接頭辞の最終的な用例数は次の表1の通りである。

表1 用例数

「過去」系				「現在」系		「未来」系			
「前」	「旧」	「昨」	「先」	「現」	「今」	「翌」	「来」	「明」	「後」 ³⁾
5349	6038	503	97	3508	1358	1882	515	55	269

3. 修飾用法と照応用法

字音接頭辞は名詞が後接し、その後接語に意味を添加し、後接語を連体修飾する関係にあるのが一般的である。本稿の考察対象の一つである「現」を取り上げると、「現」は、(1)の「現政権」のように、「政権」という名詞が後接し、その後接語に「今の、現在の」という意味を添加し、「政権」という後接語を連体修飾する。

- (1) このような政府の姿勢は、現政権の弱さに起因しているところが大きいと考えられる。
(BCCWJ 『新興民主主義国の経済・社会政策』2001)

しかし、「現」の実例の中に、(2) のような例文が多数存在する。

- (2) そこで、大阪市は、大正3年東京高等商業（現一橋大学）の教授の職にあった関一を大阪市に招き、助役に就任させた。（BCCWJ『地下鉄の歴史』2004）

発話時点とは異なる昔の名称に言及する時、「現」は「(昔は異なるが)今は…である」という意味を表し、注釈のように機能する。さらには、点線で示した「東京高等商業」がなければ、「現一橋大学」という表現も成り立たないだろう。つまり、「東京高等商業」は照応表現における先行詞と似た役割を果たし、「現一橋大学」は「東京高等商業」に依存し、照応詞と似た役割を果たす。よって、(2) のような「現」の用法を「現」の「照応用法」と名付ける。

それに対し、(1) の「現政権」は、照応と関係なく、先行詞に依存せずに使われている。「現」は「今の、現在の」という意味を表し、後接語である「政権」を修飾し、修飾関係になる。よって、「現政権」「現首相」の「現」の用法は「現」の「修飾用法」と名付け、照応用法と区別する。

本稿の考察対象の中に、「現」のみならず、「前」「旧」も照応用法と関係するが、次節で詳しく検討する。

4. 照応用法

前節で述べたように、「時間・順序」を表す字音接頭辞の中に、大きく修飾用法と照応用法の2つに分けられる。本節では、まず議論されていない照応用法から見ていく。

4.1 照応用法の「現」

照応用法の「現」の用例は、次の(3)～(6)を取り上げる。照応用法の「現」は、典型的には括弧の中に位置し、注釈のように機能する。さらに、その括弧は先行詞に当たるものの直後に位置する。括弧の存在および位置によって、「現」は照応用法を持つことになる。

- (3) 昭和20年8月10日午前2時、深いねむりに陥っていた新京（現・長春）市民の夢を破って、突如不気味なサイレンが鳴り出しました。（BCCWJ『女の生き方四〇選 上』1995）
- (4) 本稿では、西アフリカの王制をもった二つの無文字社会、旧モシ王国（現ブルキナファソ）と旧ベニン王国（現ナイジェリア）の音と図像による歴史表象を相互に比較し、……。 （BCCWJ『口頭伝承論 下』2001）

- (5) 竹田稔元判事 (現弁護士) は「わが国における名誉・プライバシー侵害に対する慰謝料額は著しく低額であることが明らかであり」……。

(BCCWJ『包囲されたメディア』2002)

- (6) MBI日本語版の詳しいことについては、翻訳者である北岡 (東口) 和代氏 (現石川県立看護大学) に直接確認されることをおすすめする。

(BCCWJ『学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』2004)

(3)～(6) は「X (現 Y)」という形式で、先行詞相当の X を点線で示し、照応詞相当の Y を下線で示す。(3)～(6) の「現」はいずれも照応用法であるが、この4例には、さらに検討すべき違いもあると思われる。

(3) の「新京」と、(4) の「モシ王国」「ベニン王国」は、そのもの自体の名称が変更され、昔の名称 (X) が今の名称 (Y) に変更されたもので、「X=Y」という関係になる。そのため、「新京は現在長春である」も、「長春は昔新京であった」も事実として合っている。よって、(3) (4) のタイプを「一致関係タイプ」と名付ける。

それに対し、(5) の「弁護士」と、(6) の「石川県立看護大学」は、「竹田稔元判事」や「北岡 (東口) 和代氏」といった人の名称が変更されたのではなく、肩書きといった状況や属性が変わったものである。先の一致関係タイプの「X=Y」という関係ではなく、「X はどんなものであるかという Y だ」というような関係になる。これらのタイプは「属性説明タイプ」と名付けておく⁴⁾。

もう一つ興味深い現象は、一致関係タイプの「現」の対義表現と属性説明タイプの「現」の対義表現に異なりが見られる。(4) の先行詞においては、「旧モシ王国」「旧ベニン王国」の「旧」が使われているのに対し、(5) では、「竹田稔元判事」の「元」が使われている。

BCCWJ の用例の中に、照応用法の「現」は 1305 件ある。さらに分類してみると、一致関係タイプは 1019 件、属性説明タイプは 286 件見つかった。一致関係タイプの 1019 件のうち、先行詞に「旧」が使われる用例は 60 件ある。それに対し、「元」は 5 件、「前」は 1 件のみである。一致関係タイプの「現」の対義表現は「旧」が一般的に使われるといえる。一方、属性説明タイプの 286 件のうち、先行詞に「元」が使われる用例は 20 件、「前」は 7 件ある。それに対し、「旧」はわずか 1 件のみである。属性説明タイプの「現」の対義表現は「旧」より、「元」「前」が使われるのが一般的であろう⁵⁾。この違いも一致関係・属性説明という 2 タイプを分ける証拠になるのではないかと考えられる。

以上のように、照応用法の「現」はさらに「一致関係タイプ」と「属性説明タイプ」の 2 つに細分類できることを述べた。まとめると表 2 のようになる。

表2 照応用法の「現」の2分類

分類	分類基準 ⁶⁾	説明	例文	用例数	「現」の対義表現
一致関係 タイプ	○ Xは現在Yである。 ○ Yは昔Xであった。	昔の名称(X)が今の名称(Y)に変更され、「X=Y」になる。	(3) (4)	1019例	「現」⇔「旧」
属性説明 タイプ	○/× Xは現在Yである。 × Yは昔Xであった。	名称の変更ではなく、Xに関する属性や状況の変化。	(5) (6)	286例	「現」⇔「元」「前」

4.2 照応用法の「前」

照応用法の「前」は、「現」と同様に、(7)～(9)のように、先行詞の直後に括弧が使用される場合が確認される。

- (7) 中ソ合弁機械製作会社が引き継ぐのは、瀋陽・安東・ハルビン自動車修理組立製作工場（前満州自動車製造株式会社）。各工場とも民用自動車の製作を目標とし、戦車は作るべきでない、金州重機械製作工場（前満州機械製作株式会社）とする。

(BCCWJ『中ソ関係史の研究』1990)

- (8) アジアなど非西欧圏の現代アートにも詳しい英国人デヴィッド・エリオット氏（前ストックホルム近代美術館館長）を館長に迎え、……。

(BCCWJ『装苑』2003年7月号)

- (9) アメリカから十年遅れて、日本でもそうした気運が高まり、室伏靖子先生（前、京都大学）がオーガナイザーとなって、……。

(BCCWJ『チンパンジーの心』2000)

「前」は「(今は異なるが)昔は…であった」という意味を表し、「現」と同様に、括弧の中に位置し、注釈のように機能する。また、「現」と同様に、(7)のような一致関係タイプと(8)(9)のような属性説明タイプの2タイプが見られる。

「現」と異なるのは、次の(10)のように、括弧内に「以下「前○○」という」が明示されることによって、次に出現する際に、「前○○」という形で照応機能を持つ場合は「前」には見られるが、「現」には見られないということである。

- (10) 一 当該中期目標の期間（以下この項及び次項において「当該期間」という。）の直前の中期目標の期間（次号において「前期間」という。）の最後の事業年度に係る整理を行った後積立金がなかったとき 当該期間の最後の事業年度に係る整理を行った後の積立金の額に相当する金額 二 前期間の最後の事業年度に係る整理を行った後積立金があった場合であって、当該期間の最後の事業年度に係る整理を行

った後の積立金の額に相当する金額が前期間の最後の事業年度に係る整理を行った後の積立金の額……。(BCCWJ『独立行政法人造幣局法』2002)

点線で示したように、先行詞は冗長ないまわしであり、その冗長ないまわしの繰り返しを避けるために、先行詞の直後の括弧内に、「次号において「前期間」という」という表現が明示されることによって、「前期間」という短い表現で使用され、「前期間」という表現も照応機能を持つようになり、先行詞を指し示す。このような用法は、「現」には見られない。

4.3 照応用法の「旧」

照応用法の「旧」は、「前」と同様な特徴が見られる。まず「現」「前」と同様に、(11)～(13)のように、先行詞の直後に括弧が使用される場合が確認される。

- (11) 演劇「KOZA 二千五」は、空港通り (旧ゲート通り) のライブハウスが舞台。
(BCCWJ『琉球新報』朝刊, 2005)
- (12) 日本の銀行は財務省 (旧大蔵省) の影響が強いので半国有化みたいなものですよ。
(BCCWJ.Yahoo! 知恵袋, 2005)
- (13) 東プロイセン (旧ドイツ領) から引き上げた人たちの設立した、異色の博物館であった。
(BCCWJ『ドイツ ビールへの旅』2003)

「旧」は「前」と同様に、「(今は異なるが) 昔は…であった」という意味を表し、括弧の中に位置し、注釈のような機能をする。また、「現」「前」と同様に、(11) (12) のような一致関係タイプと (13) のような属性説明タイプの2タイプが見られる。

さらに、「前」と同様に、括弧内に「以下「旧○○」という」が明示されることによって、次に出現する際に、「旧○○」という形で照応機能を持つ場合が見られる。次の (14) (15) を取り上げる。

- (14) 社会保険や共済組合など、被用者保険※の被保険者が長寿医療制度へ移行するため、六十五歳から七十四歳までの被扶養者 (旧被扶養者といひます) が国民健康保険に加入することになった場合は、申請により2年間、保険税の所得割額と資産割額が免除されるとともに、均等割が半額となります。さらに、世帯内の国保加入者が、全員旧被扶養者のみであった場合には、平等割も半額となります。
(BCCWJ『広報みぶ』2008年06号)

- (15) 第十一条 この法律の施行の際現に附則第三条の規定による改正前の海上運送法

(以下「旧海上運送法」という。) 第二条第八項の海上運送取扱業について旧海上運送法第三十三条(旧海上運送法第四十四条において準用する場合を含む。)において準用する旧海上運送法第二十条第一項の届出をしている者は、……。

(BCCWJ『貨物利用運送事業法』1989)

「前」と同様に、点線で示したように、先行詞は冗長ないいまわしであり、その冗長ないいまわしの繰り返しを避けるために、先行詞の直後の括弧内に、「旧被扶養者といいます」「以下旧海上運送法という」という表現が明示されることによって、「旧被扶養者」「旧海上運送法」という短い表現で使用され、照応機能を持つようになり、先行詞を指し示す⁷⁾。

4.4 照応用法のまとめ

「時間・順序」を表す字音接頭辞の中に、「現」「前」「旧」が照応用法を持つということを見てきた。まとめると、次の表3のようになる。

表3 「現」「前」「旧」の照応用法

		「現」	「前」	「旧」
先行詞の直後に括弧が使用される場合	一致関係タイプ	○ (1019 例)	○ (7 例)	○ (284 例)
	属性説明タイプ	○ (286 例)	○ (18 例)	○ (10 例)
括弧内に「以下「△○○」という」が明示されることによって、次に出現する際に、「△○○」という形で照応機能を持つという場合		×	○ (異なり 1 例、 延べ 4 例)	○ (異なり 37 例、 延べ 316 例)

5. 修飾用法

以下では、「現在」「過去」「未来」という3系列を分けて、「時間・順序」を表す字音接頭辞の修飾用法について検討する。

5.1 「現在」を表す「現」「今」

5.1.1 「現」について

「現」は「今の、現在の」という意味解釈で問題はないが、「こちらは社長の田中です」のように「現」がなくても「今の社長」という意味が捉えられる。では、「現」がつく意味はどこにあるのか。本稿は「現」の機能として4点を指摘する。

まず第一に、「時点」「政権」など「現」がつかないと意味が変わる語がある。「時点」と「現時点」、「政権」と「現政権」は意味が異なり、「現」がなければ、「今の」「現在の」という意味が捉えられない。この場合は、当然「現」が必要である。

第二に、「現」には、所属などの古い情報が更新したことを強調する機能がある。

- (16) こうした社会的課題について学習をする際に、前川恒雄が『われらの図書館』（筑摩書房、千九百八十七年、著者は前日野市立図書館長、現滋賀県立図書館長）で展開した視点が重要になってくる。

(BCCWJ 『生涯学習時代の社会教育をつくる』1995)

- (17) 去年の秋、人事総務本部長の桜田洋一が、当時はまだ社長だった現会長の黒田美夫から社員の二割削減を厳命されて以来、この傾向にさらに強力な拍車がかかった。

(BCCWJ 『左遷！商社マンの決断』1990)

「前日野市立図書館長」「まだ社長だった」からわかるように、「以前とは違う」「古い情報が変わった」ということを明示するために、「現」をつけるのではないかと考えられる。

第三に、「現」には、前後の文脈に出現する同レベルのものを区別する機能がある。

- (18) まず、高市政務次官に来ていただいておりますが、この問題で堀内前大臣と謝野現大臣の間に引き継ぎが行われたでしょうか。

(BCCWJ, 第144回国会会議録, 1998)

- (19) 初代社長は土木工事を得意とする技術者でしたが、二代目の現社長は数字に非常に強く、経営者としての才覚もあったため、好景気の追い風を受けて順調に会社規模を拡大させました。

(BCCWJ 『社長から始めるIT経営』2002)

前の文脈に「前大臣」「初代社長」が出ており、それと区別するために、「現」をつけて、「今の大臣」「今の社長」という意味を強調するのではないかと思われる。

第四に、(20) (21) のように、歴史について客観的に述べる文脈では、第三者の誰が見ても、どの時点から見ても、発話時現在の事実を指すということを表す場合がある。

- (20) 現スハルト政権は六十八年3月に正式に発足し、八十八年3月の選挙で連続5期当選を果たし、……。

(BCCWJ 『我が国の政府開発援助 1988 (下巻 (国別実績))』1988)

- (21) 「創造と挑戦」—松下電器産業がより一層社会に役立つ企業への成長をめざし、森下洋一現社長が九十三年二月の社長就任を機に打ち出した経営スローガンである。

(BCCWJ 『新聞広告で現代を読む』1997)

5.1.2 「今」について

「今」の意味用法は、国語辞典の意味記述を参考にした。まとめると、表4のようになる。

表4 国語辞典における「今」の意味記述

	①今の、現在の	②きょうの	③このたびの、今回の
岩波国語辞典（『岩波』） 第7版（2009）	○	×	○ 「今学期」
学研現代新国語辞典（『学研』） 改訂第5版（2012）	○ 「今国会の会期」		
三省堂国語辞典（『三国』） 第7版（2014）	○ 「今シーズン・今世紀」	○ 「今十日・今早朝」	○ 「今事件」
集英社国語辞典（『集英社』） 第3版（2012）	○	×	○ 「今世紀」
新選国語辞典（『新選』） 第9版（2011）	○ 「今学期・今シーズン」	○ 「今夜半・今早朝」	○ 「今国会・今総会」
新明解国語辞典（『新明解』） 第7版（2012）	○	○ 「今十二日」	×

全体で見ると、『新明解』には「③このたびの、今回の」という意味記述がない。『岩波』と『集英社』は「②今日の」という意味記述がない。『学研』は「現在の」「今の」「このたびの」「今日の」などの意」と、分けず一括りで記述されている。『三国』『新選』では表4のように、3つに分けて意味記述がされている。

また、用例を見てみると、「今世紀」は『集英社』では「③このたびの、今回の」に入っているが、『三国』では「①今の、現在の」に入っている。「今学期」は『岩波』では「③このたびの、今回の」に入っているが、『新選』では「①今の、現在の」に入っている。

国語辞典を参考にし、本稿は「今」の意味用法を3つに分けることにする。「今」が3つのどれかを表すかは、「今」の後接語の意味分野によって判断する。後接語が「世紀」「年度」など（時間）幅が長い時間を表す語であれば、「今」は「①今の、現在の」を表す。「十日」「今朝」など一日の時間単位と結合すれば、「今」は「②今日の」を表す。「大会」「春闘」など人間活動にかかわる語であれば、「今」は「③このたびの、今回の」を表す。ただし、収集したデータを見ると、「今日の」という意味で使われる「今」は1例もなかった。

「今」の意味用法をまとめると、次の表5のようになる。

表5 「今」の意味用法

意味用法	後接語	語例 ⁸⁾
今の、現在の	主に(時間)幅が長い時間を表す語	年度(725)、世紀(248)、シーズン(12)、学期(9)、会期、周期(4)、時点、中間期(3)、任期(2)、クール、東宮、内閣、四半期、学年(1)
今日の	一日の時間単位を表す語	実例がない
このたびの、今回の	人間活動にかかわる語	国会(156)、大会(125)、場所(44)、議会(5)、臨時会(4)、春闘、公演、臨時国会(2)、ver、法案、予選(1)

5.2 「過去」を表す「前」「旧」「昨」「先」

5.2.1 「前」について

修飾用法の「前」は、意味によって3分類することができる。まず一つ目は、「時間的な前、現在の一つ前」という意味を表す「前」である。以下の(22)～(24)を取り上げる。

- (22) レーガン前大統領は自由貿易に確固たる信念をもっていた。
(BCCWJ『ワシントン特派員の小さな冒険』1991)
- (23) ラジオ受信者数の推移を示すグラフで、前年度より上昇率が高いところは事変、戦争が起った時である。
(BCCWJ『昭和文化』1987)
- (24) 平成十一年式で、前愛車のシーマと同年式だけど、未だに古さを感じさせないスタイリングでカッコいいんですよ～。
(BCCWJ.Yahoo! ブログ, 2008)

(22)の「前」は「大統領」という職業名と共起する。久保(2016)によると、「前」と共起できる職業名は、「大統領」「会長」「大臣」のように、「一人以上の定員を持つ」という特徴を持つ。久保(2016)の指摘で考えると、「前」は時間的に一つ前という意味を表すため、「前大統領」は、昔の大統領全員ではなく、現職の大統領の一つ前の大統領を指す。「前」は時間的に一つ前という意味を表すため、「一人以上の定員を持つ」職業名としか結合できず、「会社員」「先生」「職人」というように、「歴代」という意味が成立しない職業名と結合できない。

(23)の「前年度」も同様に、「前」は時間的に一つ前という意味を表すため、「前年度」は、今年度の一つ前の年度を指す。このように、「前」は、「シーズン」「段階」「世紀」などの時間を表す語と結合し、時間的に一つ前という意味を表す。

(24)の「前」は、「愛車」というモノを表す名詞と結合する用例であるが、「大統領」と類似し、「歴代」という意味を持つ。「前愛車」は、今の愛車の一つ前の愛車を指し、「前」は(22)(23)と同様に、時間的に一つ前という意味を表す。

図で示すと、図1のようになる。

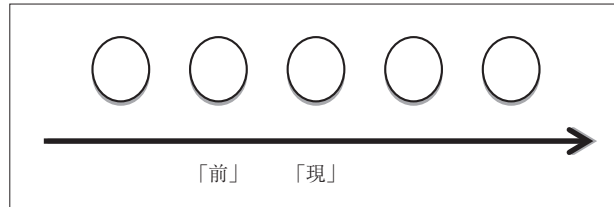


図1

二つ目の意味は、「空間的な前、前の部分に位置する」という意味である。次の(25)～(27)を取り上げる。

(25) 人の脊柱は前額面ではまっすぐであるが、矢状面では生理的に弯曲している。

(BCCWJ『整形外科学』2005)

(26) 男は後ろにのけぞり、前甲板に倒れ込んだ。(BCCWJ『フロリダ半島壊滅』1989)

(27) 被告人の両手を掴んで自らの前頸部にあてがい、お願いだから、後生だからと重ねて懇願した。(BCCWJ『半落ち』2002)

(25)の「前額面」は、「額面」という全体の前の部分を指す。(26)の「前甲板」と(27)の「前頸部」も同様であり、「甲板」「頸部」という全体の前の部分を指す。このように、(25)～(27)の「前」は、空間的に前の部分に位置するという意味を表し、空間を表す語や、身体部分を表す語とよく結合する。

図で示すと、図2のようになる。

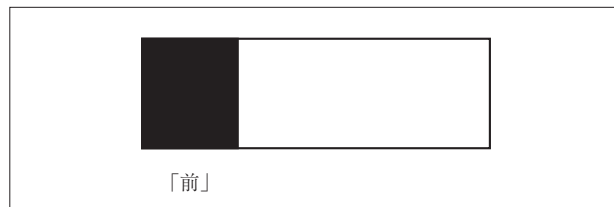


図2

三つ目の意味は、主に発達段階について、あるときより前という意味を表す。次の(28)～(30)を取り上げる。

(28) 古代ギリシャから中世イングランドまで、前近代のスポーツが、文明的な優雅に欠けていたことは、容易に説明できる。(BCCWJ『「非人間化」の時代』1986)

(29) ……諸制度間の調整調和をはかる連帯基金の考え方を理解するためには、これらの前社会保障期における経過を知る必要があるだろう。

(BCCWJ『フランスの社会保障』1989)

- (30) 4 前青春期 概ね八歳半～十歳 「親密欲求」が起こり、「親友」との水入らずの
関係を作る時期である。 (BCCWJ『「非行」は語る』2002)

(28)の「前近代」は、「近代」という段階より前の段階を指す。(29)の「前社会保障期」は、「社会保障期」という段階より前の段階を指す。(30)の「前青春期」も同様に、「青春期」という段階より前の段階を指す。このように、(28)～(30)の「前」は、あるときや段階より前という意味を表し、発達段階を表す語と結合することが多い。

5.2.2 「旧」について

「旧」の意味に関する先行研究には、田中・上野(2002)があり、「旧」を3タイプに分けており、本研究も、それにしたがう立場を取る。

まず一つ目は、限定修飾の構造の「旧」であり、「結合型」と呼ばれており、「旧X」以外のXも存在することを含意する(田中・上野2002:107)と指摘している。「旧石器」「旧大陸」「旧情報」「旧体制」「旧条約」のように、「名詞Xが指す複数の対象のうちの「旧い」部分を示す」(田中・上野2002:107)。例えば、「旧石器」は、「通常、複数種類のある「石器」の集合における「旧」の部分という意味解釈しか許容されない」(田中・上野2002)としている。

二つ目は、非限定修飾の構造の「旧」であり、「分離型」と呼ばれており、「旧X」のX部のみを言及する(田中・上野2002:107)と指摘している。「旧ソ連」「旧国鉄」「旧満州」「旧住専」「旧さくら」などのように、「名詞Xが指すある特定の対象が、かつてのものであり、現在はXではないことを示す」(田中・上野2002:107)。例えば、「旧ソ連」は、「ソ連」という特定の国を言及し、それが「かつてのもの」であり、今はソ連ではないことを意味している」(田中・上野2002:107)としている。

三つ目は、「旧校舎」「旧病棟」「旧社屋」「旧メンバー」「旧領地」などのように、両方の解釈ができるタイプである。田中・上野(2002:107-108)では、例えば、「旧校舎」は、結合型として現れる場合は、複数ある校舎のうちの「旧いもの」という、限定修飾の解釈がなされる。一方、分離型として現れる場合は、ある特定の校舎が「かつてのもの」、すなわち、今は校舎ではなく別の建物(あるいは廃墟)であるという解釈がされると指摘されている。

BCCWJから収集した「旧」の用例を見てみると、田中・上野(2002)の3タイプが十分に説明することができる。よって、本稿は、修飾用法の「旧」の意味用法に関しては、田中・上野(2002)の論にしたがう。

5.2.3 「昨」について

「昨」の後接語を見てみると、「今」の後接語と重なるものがある。「昨」と「今」は意味的に体系性を持つといえる。表5で示した「今」の意味用法を参考に、「昨」の意味用法を示すと、次の表6の通りである。

表6 「昨」の意味用法

意味用法	後接語	語例
「今の、現在の」に対する、前の	主に（時間）幅が長い時間を表す語	年度（351）、シーズン（91）、「昭和8年」などの年を表す語（21）、「9月」などの月を表す語（1）
「今日の」に対する、前の	一日の時間単位を表す語	「二十八日」などの日を表す語（33）、晩ご飯（1）
「このたびの、今回の」に対する、前の	人間活動にかかわる語	ドラフト（1） ⁹⁾

5.2.4 「先」について

「先」の後接語には、「シーズン」「カンブリア紀」「土器時代」など、時間・年代を表す語が多いが、ほかの語もある。「先」の後接語の全データを示すと、次の表7のようになる。

表7 「先」の後接語

時間・年代	シーズン（11）、カンブリア時代（6）、I期、王朝時代（3）、土器時代（2）、カンブリア紀、カンブリア系、コロンブス期、古典期、土器（1）
その他	場所（27）、順位（23）、発明（10）、国会（5）、古墳、経験（1）

「時間・年代」を表す語と結合する「先」の意味用法は、「前」の三つ目の意味、主に発達段階について、あるときより前という意味と類似する。「先カンブリア時代」「先土器時代」「先古典期」の「先」は、あるときや段階より前という意味を表す。後接語が「その他」である場合、「先」の意味を一般化することが難しい。

5.3 「未来」を表す「翌」「来」「明」「後」

5.3.1 「翌」について

「翌」の後接語は（31）で示すように、時間を表す語としか結合しない。

- (31) 年月日を表す語（例：翌寛政12年、翌1925年、翌7月21日など、1573例）、年度（182）、営業日（25）、曜日を表す語（20）、事業年度、早朝（18）、期首、午前（8）、シーズン（5）、開庁日（4）、場所（3）、決算期、連結事業年度、四半期（2）、あさ、冬、払暁、会計年度、開館日、請求月、深夜、未明、戊戌年、夕方、一週間、終戦当日（1）

次の (32)～(34) のように、年・月・日を表す語に付く「翌」が1573例あり、最も多い。

- (32) 明治22年 (1889)、ドイツの細菌学者ロベルト・コッホの研究所に勤務していた北里柴三郎は、破傷風菌の培養に成功、翌23年には、その免疫体 (抗毒素) を発見したことにより広く世界に盛名をとどろかすに至った。

(BCCWJ 『エリート教育のすすめ』2002)

- (33) 天平9年2月の帰朝報告によると、新羅は日本からの使節を、外交使節に対する礼儀で迎えず、相手にしなかったという。……翌3月、朝廷は、諸国に釈迦三尊像の造立と大般若経の書写を命ずる。

(BCCWJ 『大系日本の歴史』1988)

- (34) さて彼等が右の「内命」を受けるとともに「帰郷旅行自由たる可し」と告げられたのは、5月16日のことであつた。……故郷の一番遠い陳重は翌17日横浜発、海路大阪で乗り換えて24日宇和島に着き、約二週間滞在して6月7日出発し15日帰京する。

(BCCWJ 『明治一法学者の出発』1988)

「翌」がどのような意味用法を持っているのかについては (35) で記した、『大辞林 第三版』(三省堂, 2006) における「翌」の意味記述が示唆を与える。

- (35) その次、の意。年月など時に関する名詞の上に付いて複合語をつくり、ある基準になる日時次の日時である意を表す。

(『大辞林』)

「ある基準になる日時次の日時」というのは、発話時を基準とするものではないという意味になる。つまり、「翌」は、発話時を基準とする直示的な字音接頭辞ではない。先行詞にあたるものが「ある基準」になり、その基準によって、「翌」の値が決まる照応的な字音接頭辞である。

例えば、(32) の「翌23年」は、発話時が明治22年であり、その発話時を基準として、その次の23年という意味ではない。点線で示した明治22年にある出来事が起こり、文脈に出現した明治22年を基準に、その次の23年という意味である。(33) (34) も同様に、文脈に出現した「天平9年2月」「5月16日」を基準に、その次の「3月」「17日」という文脈である。「翌」が直示的ではなく、点線で示した先行詞にあたるものを基準としており、その基準がなければ、「翌」の値が決まらず、表現として成立しない。

5.3.2 「来」について

「来」の後接語は異なり語数からみれば、8語しかない。「来」と結合する8語は、「今」

と結合することもできる。「来」と「今」は意味的に体系性を持つといえる。表5で示した「今」の意味用法を参考に、「来」の意味用法を示すと、次の表8の通りである。

表8 「来」の意味用法

意味用法	後接語	語例
「今の、現在の」に対する、次の	主に（時間）幅が長い時間を表す語	年度（422）、シーズン（67）、世紀（20）、クール、学期、周期（1）
「今日の」に対する、次の	「来」にはこの意味がない	
「このたびの、今回の」に対する、次の	人間活動にかかわる語	春闘（2）、国会（1）

ただし、「今回の」に対する次の」を表す用法が、延べ3例しかなく、ほとんど使用されていない。また、「来」は、「今」と体系性をなすということは、「翌」と異なり、発話時現在を基準とする「その次の」という意味を表し、直示的な字音接頭辞である。

5.3.3 「明」について

「明」の後接語は異なり語数からみれば、「十五日」などの日を表す語、「年度」、「早朝」という3パターンしかない。用例数が少なく、後接語については、顕著な特徴が見られないが、次の(36)のように、後ろに「日付」が付く場合が32例あり、最も多いことがわかる。

- (36) 地方自治法等の一部を改正する法律案の審査のため、明十五日午前九時に参考人の出席を求め、その意見を聴取することに御異議ございませんか。

(BCCWJ. 第154回国会会議録, 2002)

(36)の「明十五日」という例と合わせて考えれば、「今」は、一日の時間単位を表す語と結合し、「きょうの」という意味を表す点で、「明」と体系性を持つことがわかる。つまり、「明」は、「きょう」に対する、次の」という意味が主要な意味だと考えられる。

5.3.4 「後」について

注2で述べたが、「後」の用例収集について、「書字形出現形 が 後」という指示で検索した。その結果、10175件を得られた。しかし、「後」という字は、「のち」「あと」「ご」「こう」など多様な読み方がある。確実に「こう」と読む用例を判断することが難しい¹⁰⁾。

大まかな傾向としては、「前」と体系性を持つことがいえる。つまり、「後」は、「空間的な後ろ、後ろの部分に位置する」という意味と、主に発達段階について、あるときより後という意味を表す。

「空間的な後ろ、後ろの部分に位置する」という意味を表す「後」には、「後甲板」「後頸部」などの用例が挙げられる。主に発達段階について、あるとき後という意味を表す「後」

には、「後近代」が典型例だといえる。

6. 「時間・順序」を表す字音接頭辞の体系性

以上のように、「時間・順序」を表す字音接頭辞の個々の意味用法を見てきた。以上の意味用法の考察に基づいて、「時間・順序」を表す字音接頭辞の体系性について検討したい。

「時間・順序」を表す字音接頭辞の体系性を示すと、次の表9ようになる。

表9 「時間・順序」を表す字音接頭辞の体系性

	(過去)	(現在)	(未来)
修飾用法	「前」：時間的な前、現在の一つ前という意味 「旧」：非限定修飾構造	「現」：今の、現在の	× (「次期」などの言い方)
	「前」：空間的な前、前の部分に位置するという意味	「後」：空間的な後ろ、後ろの部分に位置するという意味	
	「前」「先」：主に発達段階について、あるときより前という意味	「後」：主に発達段階について、あるときより後ろという意味	
	「旧」：限定修飾構造	〔新〕	
	「昨」：「今の、現在の」に対する、前の	「今」：今の、現在の	「来」：「今の、現在の」に対する、次の
	「昨」：「今日の」に対する、前の	「今」：今日の	「明」：「今日の」に対する、次の
	「昨」：「このたびの、今回の」に対する、前の	「今」：このたびの、今回の	「来」：「このたびの、今回の」に対する、次の
×	×	「翌」：(照応的)	
照応用法	「前」：先行詞の直後に括弧が使用される場合	「現」：先行詞の直後に括弧が使用される場合の一致関係タイプ	×
	「旧」：先行詞の直後に括弧が使用される場合	「現」：先行詞の直後に括弧が使用される場合の属性説明タイプ	×
	「前」「旧」：括弧内に「以下△○○」というが明示されることによって、次に出現する際に、「△○○」という形で照応機能を持つ場合	×	×

表9からは、以下の5点が指摘できる。

- I. 修飾用法においても、照応用法においても、「前」「旧」と「現」が対義関係になっている。
- II. 空間的な前か後ろか、および発達段階の前か後ろかで、「前」「先」と「後」が対義関係になっている。
- III. 新しいか旧いかという意味で、限定修飾構造の「旧」と「新」が対義関係になっている。
- IV. 時間関係の前か今か次かという意味で、「昨」と「今」と「来」「明」が対義関係になっている。
- V. 「翌」と対義関係になる字音接頭辞が見当たらない。

表9に基づいて、意味的に関連性・体系性を持つグループをもっと簡潔に示すと、次の(37)のようになる。

- (37) 「前」「旧」 ⇔ 「現」
 「前」「先」 ⇔ 「後」
 「旧」 ⇔ (「新」)
 「昨」 ⇔ 「今」 ⇔ 「来」「明」

7. おわりに

本稿は、「時間・順序」を表す字音接頭辞を取り上げ、その意味用法を考察したうえで、「時間・順序」を表す字音接頭辞の体系性を表9と(37)のようにまとめてみた。

しかし、表9と(37)で示した対応関係は完全に対応していると言いがたい。例えば、「前」「旧」と「現」が対義関係になっているといっても、対応していない場合も存在する。「前年度」に対して、「現年度」ではなく、「今年度」になる。「今世紀」に対して、「昨世紀」ではなく、「前世紀」になる。このように、「前」と「今」の関係性も存在するといえるのではないかという問題が生じる。

表9と(37)で示した対応関係がどのくらい対応しているか、各字音接頭辞の後接語の精査および数値化・計量化によって、表9でまとめた体系性の緻密化を今後の課題にしたい。

註

- 1) この定義の詳細および字音接頭辞に当たるものはどのようなものがあるのかについては、山下(2018)、張(2018)を参照されたい。
- 2) ただし、この検索条件では、「明」と「後」のみがうまく抽出できなかった。「明」と「後」

- は、「書字形出現形 が 明・後」で検索し直した。語彙素読みを指定しない分、不要な表現が多く抽出されたが、目視で確認し、字音接頭辞として使用される「明」と「後」を選び出した。
- 3) 5.3.4で述べるが、「後」という字は、「のち」「あと」「ご」「こう」など多様な読み方があり、現段階で確実に「こう」と読む用例を判断することが難しい。よって、「後」の用例数の「269」という数字は、あくまでも「後」という字が接頭辞として用いられる用例数で、必ずしも「こう」と読むとは限らない。
- 4) (6)の先行詞に相当する「北岡(東口)和代氏」と照応詞に相当する「石川県立看護大学」はまったく別のものであるという理由から、(6)は、(3)~(5)とは異なり、照応用法とはいえないという意見がある。本稿の「照応」の定義は山梨(2017)を参考に、「ある言語表現が、これに後続する言語表現と同一の内容ないしは同一の対象をさす場合、これらの表現は「照応関係」(anaphoric relation)にある」(山梨2017:4)としている。この定義からみれば、その意見は確かにそうであるが、本稿は、形の一致性を重視し、先行詞の直後に括弧があり、その括弧の中に、「現」が使用されるという共通点から、(6)は、(3)~(5)と同様に照応用法と見做す。
- 5) 一致関係タイプか属性説明タイプかの区別は必ずしもその先行詞が人間か人間でないかという区別ではない。確かに、(3)(4)で示した一致関係タイプの先行詞は非人間で、(5)(6)で示した属性説明タイプの先行詞は人間であるが、(ア)のように、属性説明タイプであるにもかかわらず、その先行詞は人間でない用例も存在する。
- (ア) こうしてわたしは、中野坂上駅(現・地下鉄丸ノ内線)から都電に乗り、新宿駅(現・JR線)で省線に乗りかえて、両国駅まで—というコースを、毎日、通うことになりました。(BCCWJ『半分のさつまいも』1997)
- 6) 「○」「×」は文法的に正しいかどうかではなく、事実として合っているかどうかを表す。
- 7) 次の(イ)~(エ)のような例は、括弧内に「以下「○○」という」が明示されることによって、次に出現する際に、「○○」という形で括弧前の指示対象を指すという点で共通する。しかし、「以下「○○」という」が明示されるからといって、照応用法を持つとは限らない。(イ)の「旧」、(ウ)の「甲」「乙」は照応用法として認められるのに対して、(エ)は照応用法として認められない。
- (イ) 第十一条 この法律の施行の際現に附則第三条の規定による改正前の海上運送法(以下「旧海上運送法」という。)第二条第八項の海上運送取扱業について旧海上運送法第三十三条(旧海上運送法第四十四条において準用する場合を含む。)において準用する旧海上運送法第二十条第一項の届出をしている者は、……。 (= (15)の再掲)
- (ウ) 株式会社凹凸企画(以下、甲)と国民放送協会(以下、乙)は、上記番組における共同制作契約を結び、甲は企画段階をおもに担当し、乙は実際の制作を担当するものとする。制作された番組の著作権は甲乙両者に帰属する。
- (日本語記述文法研究会編2009:42)
- (エ) 二 株式会社の設立に際して執行役となる者(以下「設立時執行役」という。)を選任すること。三 設立時執行役の中から株式会社の設立……。(BCCWJ『会社法』2005)
- 「前」「旧」のような字音接頭辞も、「甲」「乙」のような言語形式も、実質的な意味を表さないという点で共通する。実質的な意味を表さない言語形式が「以下「○○」という」に用いられる場合、照応用法として認められる。それに対して、(エ)の「設立時執行役」のような実質的な意味を表す語が「以下○○という」に用いられても、照応用法として認められない。
- 8) 「語例」で挙げた用例はBCCWJから収集した全用例である。括弧内の数字は出現頻度を意

味する。以下も同様。

- 9) 「昨大会」という表現は BCCWJ から抽出できなかったが、新聞記事のスポーツ面をよく目にする表現であり、「今回」のに対する、前の」というグループに属する。
- 10) 複数名の日本語母語話者に収集した用例にある「後」の読み方（例：「後足部」「後銅壺」「後三者」「後工事」「後バラ肉」等）を確認したところ、「こう」と読むかどうかわからないといった返答をいただいた。

参考文献

- 久保圭 (2016) 『日本語接辞にみられる否定の意味的多様性とその体系的分類』平成 28 年度博士論文、京都大学大学院人間・環境学研究所
- 曹佳楽 (2019) 「現代日本語における漢語接頭辞について」『立教大学日本文学』121. pp. 220-232. 立教大学日本文学会
- 田中真一・上野誠司 (2002) 「『新』・『旧』の意味論と音韻論」『音韻研究』5. pp. 105-112. 日本音韻論学会
- 張明 (2018) 「字音接辞の分類」『学習院大学大学院日本語日本文学』14. pp. 130-101. 学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 7 第 12 部談話 第 13 部待遇表現』くろしお出版
- 山下喜代 (2018) 「字音形態素のカテゴリー化—接辞を中心に—」『青山語文』48. pp. 217-228. 青山学院大学日本文学会
- 山梨正明 (2017) 『新版 推論と照応 照応研究の新展開』くろしお出版

謝辞

本稿は、第 211 回青葉ことばの会（第 359 回日本近代語研究会共催、2018 年 12 月 1 日、於：国立国語研究所）における口頭発表に修正を加えたものである。ご教示を賜った発表会場の先生方に深く感謝申し上げます。

ENGLISH SUMMARY

The Systematicity of the Sino-Japanese Morphemes Meaning “Time/Sequence”

ZHANG Ming

This study discusses the following Sino-Japanese morphemes meaning “time/sequence”: zen-, kyû-, saku-, sen-, gen-, kon-, yoku-, rai-, myô-, and kô-. Inspired by the data collected from the BCCWJ, it is first proposed in this study that these morphemes can be classified as anaphoras or as modifiers. The study then examines the meanings and functions of each morpheme, and finally, explicitly explains the systematicity of the Sino-Japanese morphemes meaning “time/sequence.” With regard to systematicity, the following conclusions can be made: ① zen-, kyû-, and gen- are opposites both as anaphoras and as modifiers. ② zen-, sen-, and kô- are opposites depending on whether they mean “in front of” or “behind” with regard to position. ③ In the context of “new” or “old,” kyû- and sin- are opposites. ④ saku- and kon- and rai- and myô- are opposites in the past, present, or future, depending on the tense. ⑤ yoku- has no opposite morpheme.

Key Words: Sino-Japanese morpheme, Systematicity, Anaphora, Modification, Semantic analysis

